

白井市健康づくり推進協議会（書面会議）
議事概要

日時：令和2年12月18日（金）～令和3年1月8日（金）

方法：全委員に議事に関する資料を送付し、意見書を受領

委員：瀬野久和会長、飯尾三津子副会長、真木貞行委員、甘利英三委員、押田俊子委員、
石井薫委員、本間賢一委員、国府雅子委員、梨本しげみ委員、小田川長委員
（欠席）呂林欣諭委員

議題1 第2次しろい健康プランの達成状況について

承認

- ① この内容で問題ない 9人
- ② この内容で良いが、以下の点について考慮いただきたい 1人
- ③ この内容について異議がある 0人

議題2 第3次しろい健康プラン（素案）について

承認

- ① この内容で問題ない 7人
- ② この内容で良いが、以下の点について考慮いただきたい 3人
- ③ この内容について異議がある 0人

議題3 令和3年度保健衛生事業計画（案）について

承認

- ① この内容で問題ない 8人
- ② この内容で良いが、以下の点について考慮いただきたい 2人
- ③ この内容について異議がある 0人

委員からの意見及び回答

議題1 第2次しろい健康プランの達成状況について

○健康管理について

第1次しろい健康プランの達成状況における健康管理で、健康に関する情報や自分の健康に関する悩みの割合が低いのに、計画の展開でクローズアップされていないのが残念でした。令和3年度はコロナ禍なので、市民へ健康寿命アップのために啓発活動及び協力事業所等の選定に力を入れたら良いと思います。(市が市民に対して健康推奨していることを意識させるため。)

回答

ご意見を踏まえ、次年度から実践できるもの等を含め、検討してまいります。

議題2 第3次しろい健康プランの素案について

○出生率の減少について

未婚者数の増加や年齢が高くなってから結婚する人が増加している現状では出生率を上げることは難しいことから、若年層に対する意識改革が必要ではないか。

回答

晩婚化・晩産化や合計特殊出生率の低迷に関する課題への取り組みについては、市の最上位計画である第5次総合計画の重点的戦略として位置づけております子どもを安心して産み、育てることができる環境づくりについて、健康づくりの視点で次期計画においても取り組みを進めてまいります。

○歯科口腔保健推進計画 重点的取り組み2「生涯を通じてよく噛んで食べることや、口腔機能向上に向けた歯の喪失防止の取り組みの充実」について、市の健康寿命の現状値を考えると、76歳の歯科口腔健康診査では遅いのではないかと、もっと早い年齢での診査が良いと思う。

回答

重点的取り組み2については、76歳を対象とした後期高齢者歯科口腔健康診査の問診票で評価するためこの評価指標としておりますが、この取り組みの対象者は75歳以下までの市民を想定しております。

具体的な取り組みとして、令和3年度から65歳以上の高齢者を対象とした通いの場における口腔ケア教室を新たに実施します。また、40歳、50歳、60歳、70歳を対象者として市が実施している歯周疾患検診において、受診券送付時の啓発用リーフレットの配布や、歯科医療機関の協力のもとで検診実施時に口腔機能の維持改善に関する支援を新たに実施する予定です。

○食育推進計画 めざそう値の新規設定項目「日本食や地域の伝統的な料理を食べる人の割合の増加(20歳以上)」の設定について

日本食や地域の伝統的な料理を具体的に何かを知っている市民がどの位いるのか疑問です。日本食、伝統食は特に白井市の地産の野菜を中心にしたレシピの広報を積極的にすべきだと思いました。

回 答

「日本食や地域の伝統的な料理を食べる人の割合の増加（20歳以上）」については昨年度に実施した「白井市民の健康に関するアンケート調査結果」において、43.5%となっております。日本食や地域の伝統的な料理等について更なる周知を進めるとともに、食生活改善推進員などの関係団体と連携し、白井産野菜を使用したレシピなども活用して啓発を進めてまいります。

○農作業に興味のある人について

第2次しろい健康プラン策定時の市民アンケート結果で「農業に興味がある人」は41.3%でした。農作業は身体を動かし普段使わない筋肉を使う、また土を触ることは精神的にも良いと聞く。高齢化により農業をする人が減少し、畑を売ったり、これからどうするか悩んでいる家もあることから、市で農地を作り、興味のある人に開放したら良いのではないかと。

回 答

産業振興課において、高齢者のいきがづくりや、生徒・児童の体験学習の場として、また、農家の高齢化や後継者不足などにより耕作されなかった農地の有効活用などを目的として、市民農園開設の支援事業を行っています。現在、市民農園として3園が登録されており、農地を手放したい人や活用したい人に利用いただいています。

○健康プランのあるべき姿の具現化

子ども、成人、高齢者や各小学校区での表彰

数字や言葉よりも身近に人在する人物がいると健康に対する気持ちがより促進される（相乗効果が生まれる）

回 答

健康づくりの取り組みや行動を始め、それを継続するための方法として、実践例の紹介や、表彰という形で継続を支援する方法も考えられます。これから始める人、すでに始めている人、様々な段階の方がいらっしゃいますが、それぞれが健康づくりに取り組めるような支援を検討してまいります。

○市民への情報発信について

市民に情報発信することをしていただきたい。

回 答

ライフステージに応じた健康づくりに関する情報発信を、計画ごとに行ってまいります。

○パブリックコメントの実施について

第2次しろい健康プラン策定時のパブリックコメントの意見件数が0件でしたが、関心がいまひとつないから意見がなかったかもしれない。また、公表の方法に工夫が必要かもしれない。

回 答

計画素案に関するパブリックコメントの実施について、広報やホームページでの実施周知のほか、計画の関係機関・団体にも協力して周知いただけるように準備してまいります。

議題3 令和3年度保健衛生事業計画（案）について

○食育推進計画重点的取り組み「各種料理等の教室事業での共食の啓発」について

家族間の共食はまだしも、コロナ禍の時、地域・友人同士の共食は難しい、また学校でも静かな給食で食を通じたコミュニケーションがとれない今こそ、食後の少しの時間に「食」についての子供達の意見を吸い上げていくことによって「共食」の大切さを学んでいけると思います。

回 答

ご意見を踏まえ、「白井市栄養士連絡会」等で情報共有し、コロナ禍においても「共食」の大切さを学べるよう、保育園・学校・健康課の各種料理等の教室事業など、様々な機会をとおして取り組んでまいります。

○自殺対策計画「SOSの出し方に関する教育」について

ソーシャルネットワーキングサービスは高校生は3割程度あるが、市内小中学校児童に個別面談、アンケート調査を実施する取り組みを行うということは大切だと思います。あわせて、相談できる機関（児童相談所、教育委員会、県警の少年センター等）の窓口の電話番号を、特に中学生に伝えることも考慮したほうがいいと思います。

回 答

「SOSの出し方に関する教育」を実施する際には、千葉県作成のリーフレットを配布し、無料で通話できる相談窓口を中心に周知を行っているところですが、今後も小中学生が利用しやすい相談窓口の把握や周知を実施していきます。

○コロナ禍における事業の実施について

最近コロナが猛威を振るっているので、見極めて事業を中止することもありなのではないかと考えます。

回 答

新型コロナウイルス感染症の状況や国の通知等も参考としながら、各事業の実施について検討してまいります。